

経鼻上部内視鏡検査についての説明書

通常の上部消化管内視鏡検査は口から入れますが、ごく細い内視鏡（先端部径4.9mm）が開発され、鼻の穴から挿入し検査することが可能になりました。

利点としては

- ① のどの反射（咽頭反射：吐きそうになること）が格段に少なく通常的口からの内視鏡よりも全体的には苦痛が少ない。（ある施設の検査後のアンケートでは約 93%の人が通常的口からの内視鏡よりも楽であったと答えています。）
- ② 検査中でも会話が可能である。

欠点としては

- ① 鼻腔が狭い方や鼻に病気のある方はできない。
- ② 出血傾向（血が出やすいまたは血が止まりにくい）のある方は困難である。
- ③ 従来の内視鏡よりも細い分、見える範囲が小さく検査時間がやや長くなる可能性がある。
- ④ 生検は可能であるが止血処置や異物摘出などはできない。
- ⑤ 鼻の前処置（血管収縮剤及び局所麻酔薬の点鼻）が必要。
- ⑥ 軽度の鼻出血及び鼻痛が起こることがある。

鼻腔が狭いなどの理由でどうしても挿入が困難な場合や検査施行医の判断で検査困難と判断した時には従来の口からの検査に変更させていただきます。

以上の点を十分ご理解いただいたうえで、経鼻上部消化管内視鏡検査を希望される方はご署名をお願いします。

（ 年 月 日） 氏名（ ）

ともつ内科クリニック 鞆津 浩一
TEL : 072-230-1386